

次世代REITオープン<資産成長型> (為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／不動産投信

作成対象期間：2021年8月14日～2022年2月14日

第4期決算日：2022年2月14日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、日本を含む世界各国の不動産投資信託証券（REIT）を実質的な主要投資対象とし、人口構造の変化や情報技術の進歩等のメガトレンドの恩恵を受け、中長期的に高い成長が見込めると判断した新しい分野のREIT（次世代のREIT）に投資することにより、中長期的な値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざして運用することを目的としております。ここに運用状況をご報告申し上げます。当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第4期末 (2022年2月14日)

基準価額	12,905円
純資産総額	20,418百万円
騰落率	+2.6%
分配金合計 ^(*)	10円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第4期：2021年8月14日～2022年2月14日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第4期首	12,588円
第4期末	12,905円
既払分配金	10円
騰落率	2.6%
(分配金再投資ベース)	

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ2.6%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

為替市場で米ドルなどが対円で上昇したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

保有するREITなどの価格が下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。
個別銘柄では、「AMERICAN TOWER CORP（アメリカ／通信塔）」や「CROWN CASTLE INTL CORP（アメリカ／通信塔）」などが下落し、基準価額の下落要因となりました。

2021年8月14日～2022年2月14日

1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	113	0.860	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(63)	(0.480)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(48)	(0.363)	交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.017)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	5	0.038	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(1)	(0.009)	
(投資信託証券)	(4)	(0.029)	
(c) 有価証券取引税	1	0.010	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(0)	(0.004)	
(投資信託証券)	(1)	(0.007)	
(d) その他費用	2	0.012	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.010)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	121	0.920	

期中の平均基準価額は、13,179円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

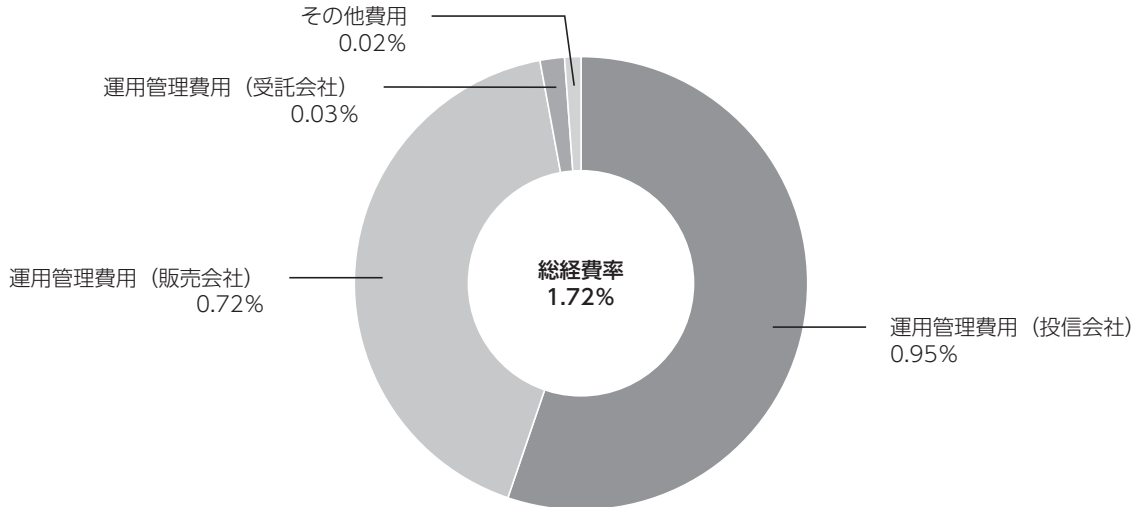
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)**■ 総経費率**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.72%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2017年2月14日～2022年2月14日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、設定時の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

				2020/2/14 設定時	2021/2/15 期初	2022/2/14 決算日
基準価額 (円)	—	—	—	10,000	10,175	12,905
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	—	—	—	10	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	—	—	—	1.9	27.0
純資産総額 (百万円)	—	—	—	0.9	17,942	20,418

※ファンド年間騰落率は、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※騰落率および期間分配金合計については、年間の値を表示しており、期間が1年に達していない場合には表示していません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第4期：2021年8月14日～2022年2月14日

投資環境について**▶ 先進国 R E I T 市況
先進国 R E I T 市況は、期を通してみると下落しました。**

期首から2021年10月中旬にかけては、中国大手不動産企業の経営危機などを受けて投資家心理が悪化し、軟調に推移しました。その後、12月末にかけては、新型コロナウイルス変異株の感染拡大などが嫌気される局面もありましたが、中国大手不動産企業の経営危機に対する懸念後退やパウエル氏の米連邦準備制度理事会（F R B）の次期議長再任発表、良好な四半期決算などが好感され、上昇しました。2022年1月から期末にかけては、物価上昇抑制のためアメリカやイギリスを中心に金融引き締めが早期化されるとの見方が広がり、長期金利の上昇などが

嫌気され下落し、期を通してみると下落しました。

**▶ 為替市況
主要投資先通貨である米ドルは、期を通して対円で上昇しました。**

期首から2021年9月中旬までは概ね横ばいで推移しましたが、9月下旬にはF R Bが量的緩和縮小の開始を近く決定する見通しを表明したことを受け米長期金利が上昇し、日米金利差の拡大などを受け、10月中旬にかけて米ドルは対円で上昇しました。その後は一進一退の展開となりましたが米ドルは底堅く推移し、期を通してみると米ドルは対円で上昇しました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 次世代 R E I T オープン<資産成長型> (為替ヘッジなし)

次世代 R E I T マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、組入比率を高位に保ちました。

▶ 次世代 R E I T マザーファンド

人口構造の変化や情報技術の進歩等のメガトレンドの恩恵を受け、中長期的に高い成長が見込めると判断した新しい分野の R E I T に投資し、中長期的な値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざした運用を行いました。

次世代の R E I T に着目し、マクロ経済分析などのトップダウン・アプローチ、

収益性分析などのボトムアップ・アプローチによる徹底的なリサーチを行い、投資妙味や成長性などが高いと判断される銘柄への投資を行いました。

R E I T の組入比率については、当期を通じて高位を維持しました。

銘柄の売買については、良好な事業環境が続き、短期的にも物流網逼迫などの恩恵が期待される「FIRST INDUSTRIAL REALTY TR (アメリカ/物流施設)」などの新規買付を行った一方、大手プライベート・エクイティによる買収が発表された「CYRUSONE INC (アメリカ/データセンター)」などの全売却を行いました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第4期
	2021年8月14日～2022年2月14日
当期分配金 (対基準価額比率)	10 (0.077%)
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,904

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 次世代 R E I T オープン<資産成長型> (為替ヘッジなし)

次世代 R E I T マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち運用を行っていく方針です。

▶ 次世代 R E I T マザーファンド

物価上昇や物流網の逼迫、新型コロナウイルス変異株などの影響が懸念されるものの、R E I T の収益は改善傾向にあり、不動産ファンダメンタルズは堅調であると考えています。今後、米国を中心に量的緩和縮小や政策金利引き上げが見込まれますが、堅調な不動産ファンダメンタルズや低金利環境下での配当成長などが R E I T 市場をサポートすると見ています。

このような状況下、メガトレンドをサポートする次世代の R E I T は中長期的に高い成長が期待できると考えています。テクノロジー関連 R E I T は、電子商取引 (e コマース) の重要なインフラとして飛躍的な需要の増加が見込まれており、引き続き良好な見通しを持っています。企業のリモートワークに関わる I T 投資

の積極化はデータセンターの需要を大きく後押しし、通信塔は第 5 世代移動通信システム (5 G) の本格商用化に伴い設備投資の増加が見込まれています。ロジスティクス関連 R E I T も e コマース拡大の恩恵が期待されており、足元では既存物件の賃料上昇や新規物件取得の動きなどが見られます。ニュースタイル関連 R E I T は、郊外への移住増加や住宅価格高騰などを受けた居住用施設の賃貸需要の高まり、ライフサイエンスの社会的需要の増加などから、堅調に推移すると見ています。シニア住宅はコロナ禍以前の状態に戻るには時間を要しますが、高齢化の進展というトレンドに変化はなく、長期的には事業環境の改善が見込まれることなどから相対的に投資妙味が高いと見ています。

当ファンドの運用については、次世代の R E I T に着目し、マクロ経済分析などのトップダウン・アプローチ、収益性分析などのボトムアップ・アプローチによる徹底的なリサーチを行い、投資妙味や成長性などが高いと判断される銘柄への投資を行っていく方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

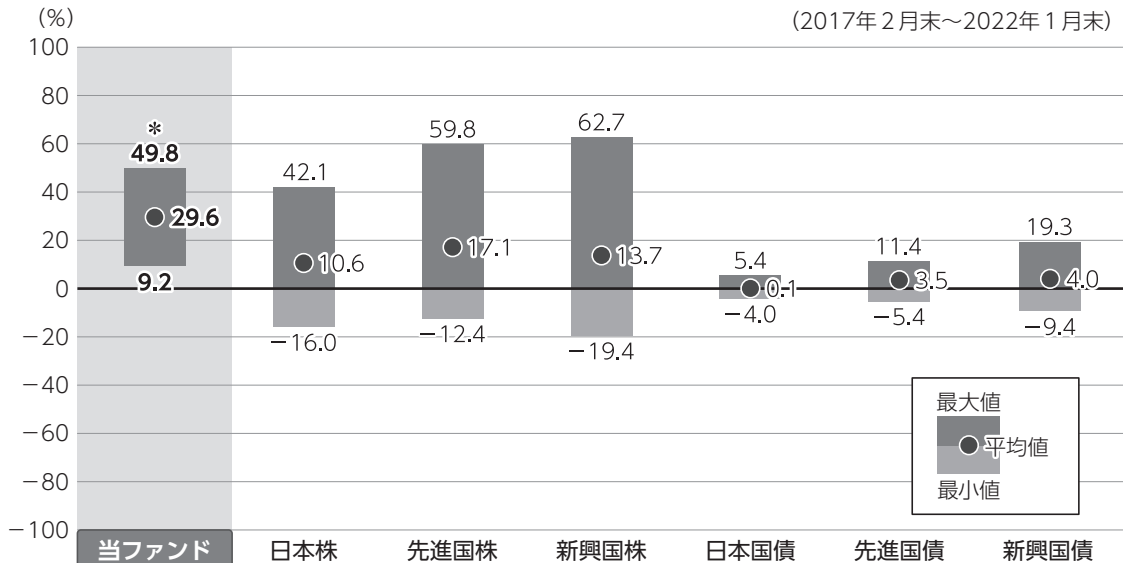
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufig.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／不動産投信
信託期間	2030年2月13日まで（2020年2月14日設定）
運用方針	<p>次世代REITマザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の次世代の不動産投資信託証券（以下「REIT」といいます。）に投資を行います。当ファンドにおいて次世代のREITとは、人口構造の変化や情報技術の進歩等のメガトレンドの恩恵を受け、中長期的に高い成長が見込めると判断した新しい分野のREITを指します。なお、マザーファンド受益証券への投資を通じて、次世代の不動産関連株式に投資を行う場合があります。</p> <p>マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>REIT等の運用にあたっては、コーヘン&ステアーズ・キャピタル・マネジメント・インクに運用指図に関する権限を委託します。また、コーヘン&ステアーズ・キャピタル・マネジメント・インクは委託を受けた運用の指図に関する権限の一部を、コーヘン&ステアーズ・ユーカー・リミテッドおよびコーヘン&ステアーズ・アジア・リミテッドに更に委託することができます。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド 次世代REITマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。</p> <p>■次世代REITマザーファンド 日本を含む世界各国の次世代の不動産投資信託証券を主要投資対象とします。</p>
運用方法	日本を含む世界各国の不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象とし、中長期的な値上がり益の獲得および配当収益の確保をめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）</p> </div>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2017年2月から2022年1月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

*ファンドについては2021年2月～2022年1月の同様の騰落率を表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2022年2月14日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第4期末 2022年2月14日
次世代REITマザーファンド	99.5%

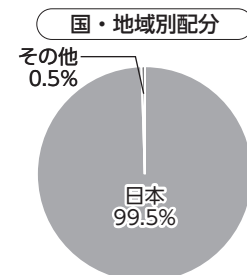
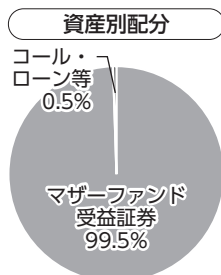
※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第4期末 2022年2月14日
純資産総額 (円)	20,418,104,701
受益権口数 (口)	15,821,842,828
1万口当たり基準価額 (円)	12,905

※当期中において追加設定元本は7,321,492,157円
同解約元本は 4,613,566,441円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

291885

2022年2月14日現在

組入上位ファンドの概要

次世代 R E I T マザーファンド

基準価額の推移

2021年8月13日～2022年2月14日



1万口当たりの費用明細

2021年8月14日～2022年2月14日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)売買委託手数料 (株式)	5 (1)	0.039 (0.009)
(投資信託証券)	(4)	(0.030)
(b)有価証券取引税 (株式)	1 (0)	0.010 (0.004)
(投資信託証券)	(1)	(0.007)
(c)その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.010 (0.010)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	7	0.059

期中の平均基準価額は、13,223円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

(組入銘柄数：38銘柄)

組入上位10銘柄

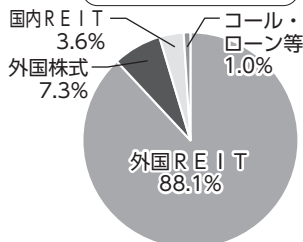
	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	AMERICAN TOWER CORP	R E I T	アメリカ	不動産	9.3
2	PUBLIC STORAGE	R E I T	アメリカ	不動産	7.8
3	CROWN CASTLE INTL CORP	R E I T	アメリカ	不動産	7.6
4	DUKE REALTY CORP	R E I T	アメリカ	不動産	7.3
5	PROLOGIS INC	R E I T	アメリカ	不動産	6.1
6	WELLTOWER INC	R E I T	アメリカ	不動産	5.8
7	DIGITAL REALTY TRUST INC	R E I T	アメリカ	不動産	4.5
8	INVITATION HOMES INC	R E I T	アメリカ	不動産	4.4
9	EQUINIX INC	R E I T	アメリカ	不動産	4.3
10	SBA COMMUNICATIONS CORP	R E I T	アメリカ	不動産	4.3

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

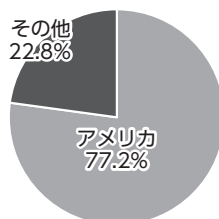
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

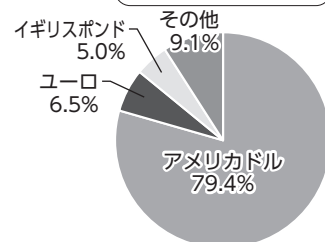
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

●MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI (国債)

NOMURA-BPI (国債) とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (総合) のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。